

地域性に着目した障害者の移動実態に関する研究

社会システム計画学研究室2012年度卒業研究 中原英明

研究の背景

ノーマライゼーション理念の浸透

移動においてもすべての人が移動できる
社会形成の考えは明文化されつつある



交通需要を満たすために**移動実態を把握することは重要**
「誰が」「どんな目的で」「どの交通手段で」「どこからどこへ」

我が国では……

健常者の移動実態
把握済

高齢者の移動実態
把握済

障害者の移動実態
不十分

体に不自由のある障害者の移動は
多様な地域性によって影響を受けるのでは？

・バリアフリーの充実度・交通サービスレベル・病院や店舗等施設数・平地～山地のような地形

限られた財源の中で適切な交通体系を実現するために、障害者の移動実態とともに地域性の関係性を明らかにすることが重要！

研究の目的

障害者の交通体系を考える上での基礎情報となる障害者の移動実態と地域性との関連性を明らかにすることを目的とする

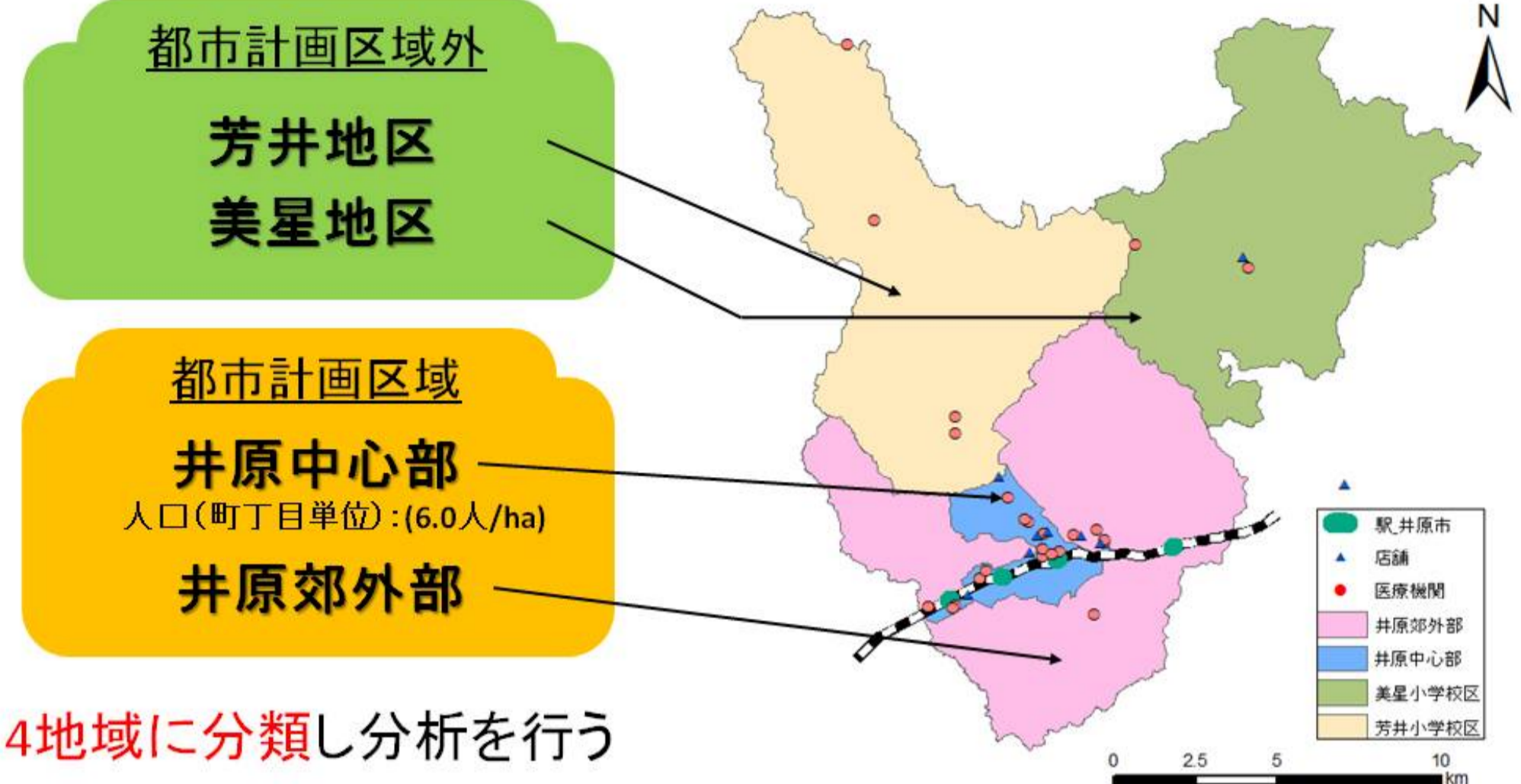
分析対象地域と使用データ

岡山県井原市

岡山県南西部、広島県との県境に位置する

特徴

- ・全域が中山間地域に指定
- ・郊外部では……
- ・過疎化が進行
- ・病院・買物施設数の減少



4地域に分類し分析を行う

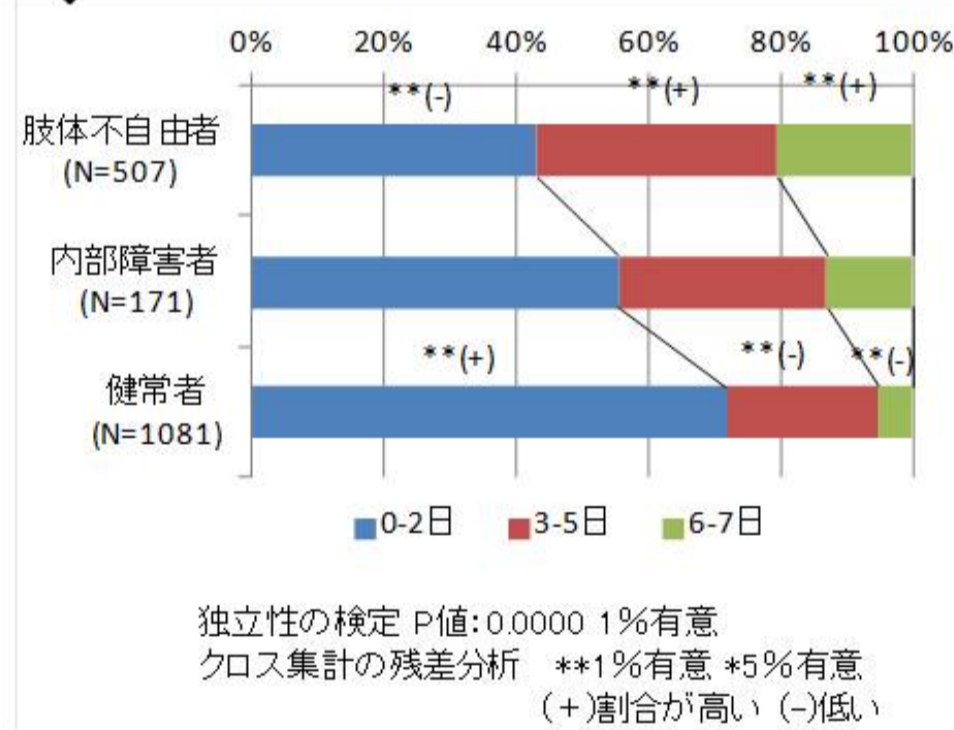
アンケート調査の概要

・障害者データ	
調査名	井原市の交通体系を考えるためのアンケート調査
調査対象地域	井原市全域
対象者	身体障害者手帳を所持している 肢体不自由及び内部障害者(全数調査)
配布・回収方法	郵送配布・郵送回収
調査時期	2012年12月
配布票数	1744部
回収票	908部
回収率	51.2%
主な調査項目	●個人属性 ●通院・買物行動の移動実態 ●通院・買物行動の移動ニーズ

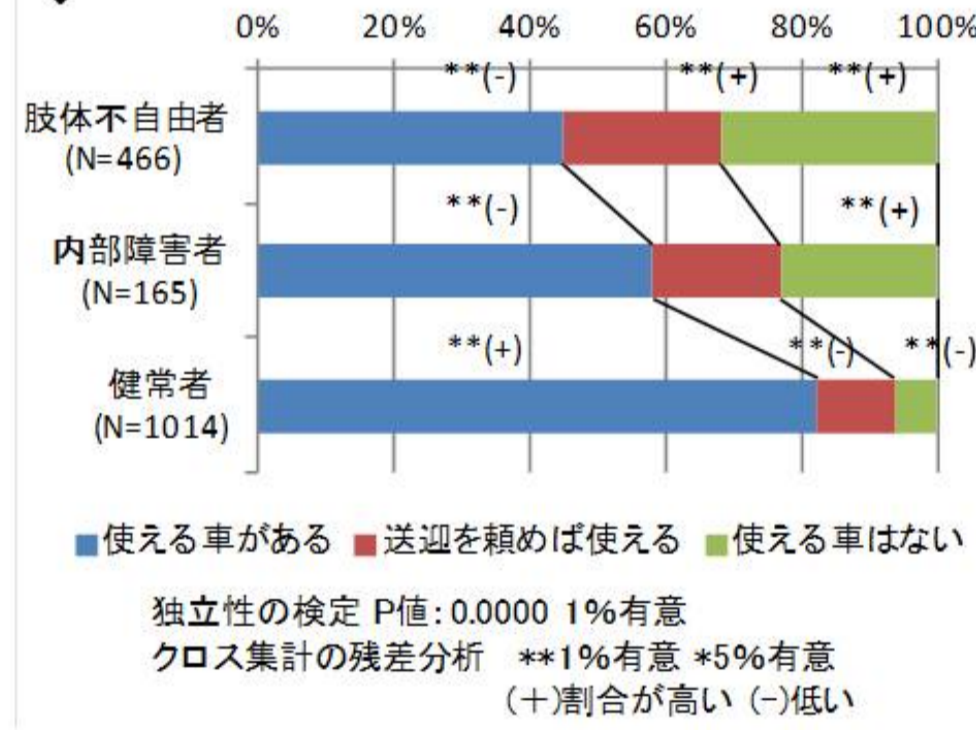
・健常者データ	
調査名	井原市を対象にランダムに配布したアンケート調査

分析結果

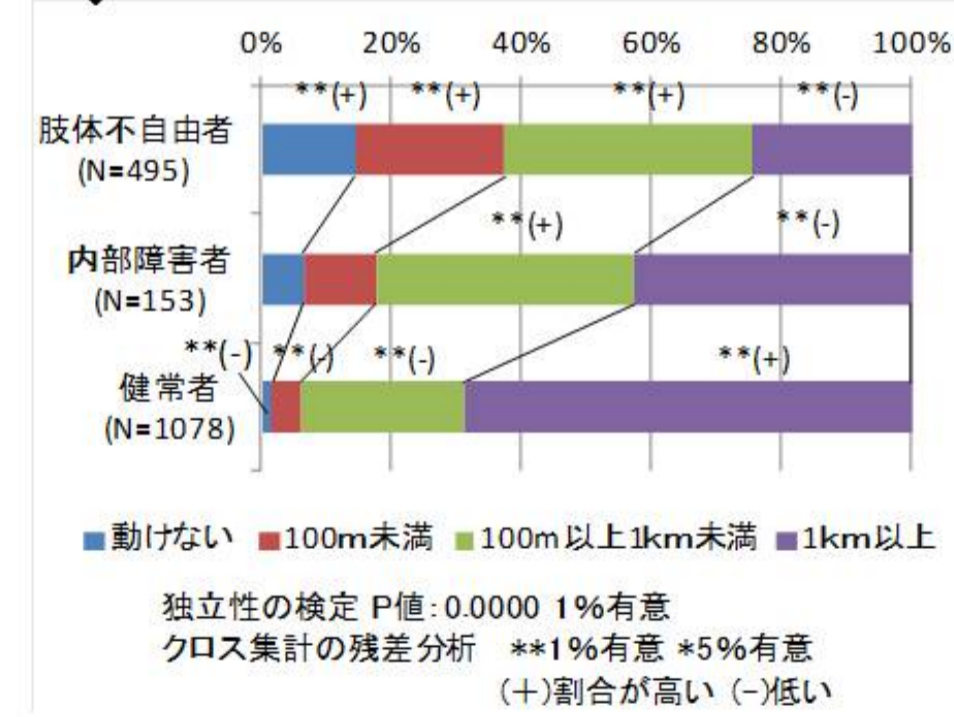
◆ 1週間のうち全く外出しない日数



◆ 車の所持状況

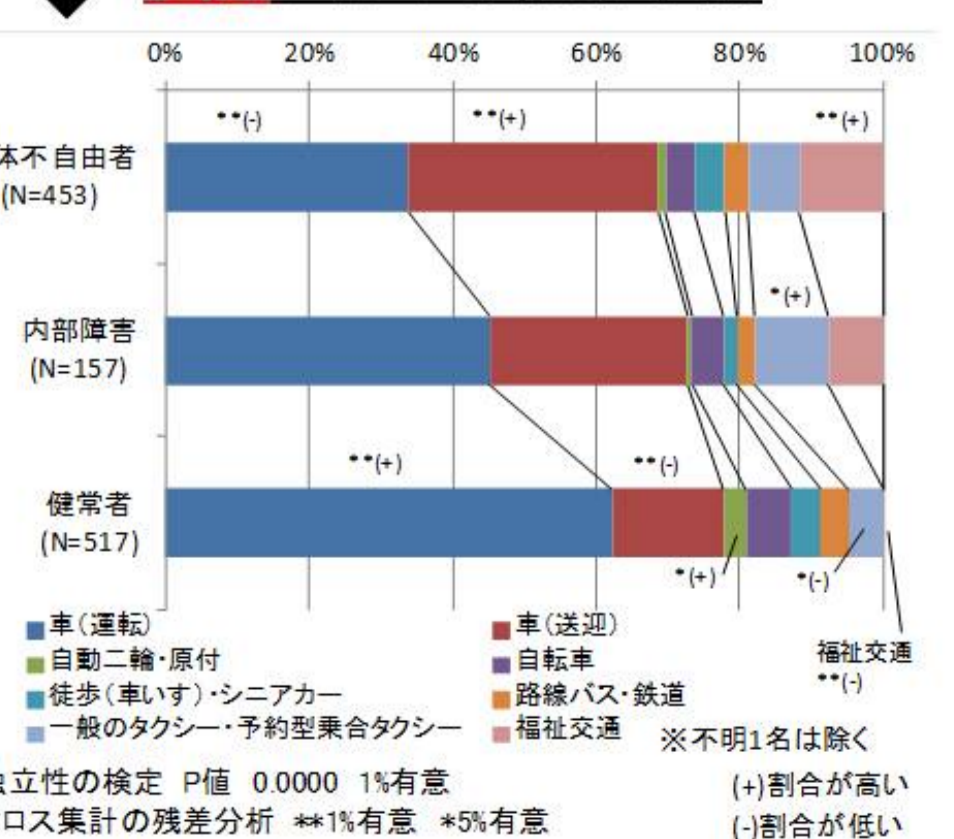


◆ 歩行可能距離

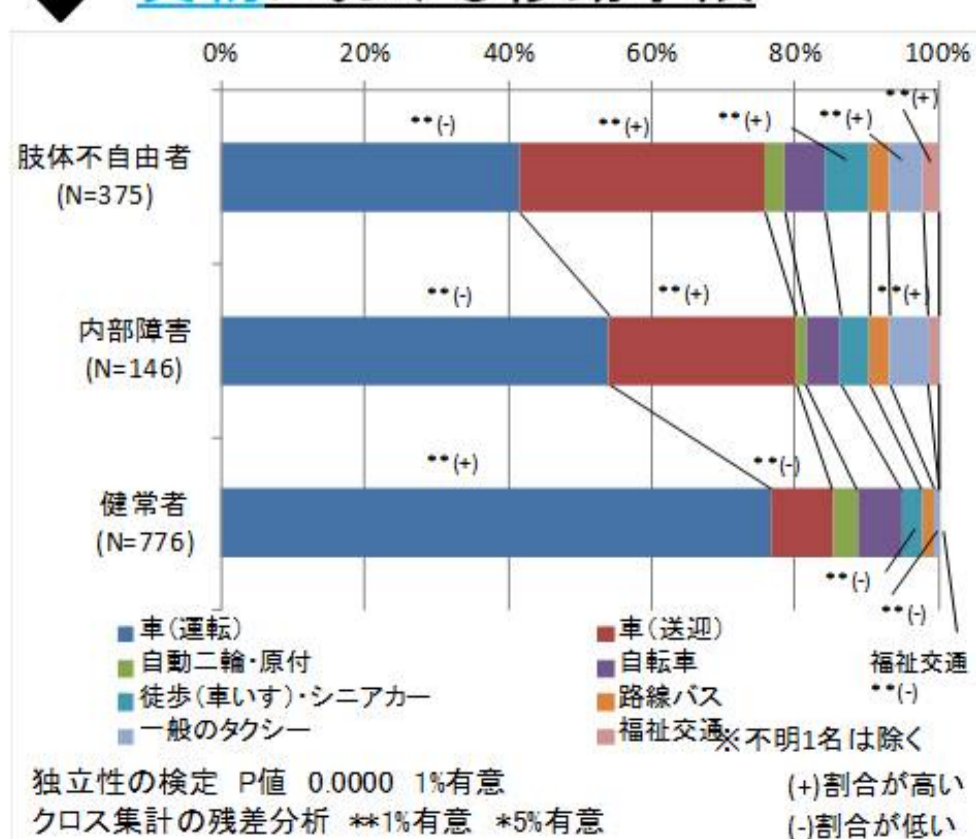


障害者は健常者に比べ
外出頻度が少ない
車の保有率も小さい
歩行可能距離の長さは
肢体不自由<内部<健常

◆ 通院における移動手段

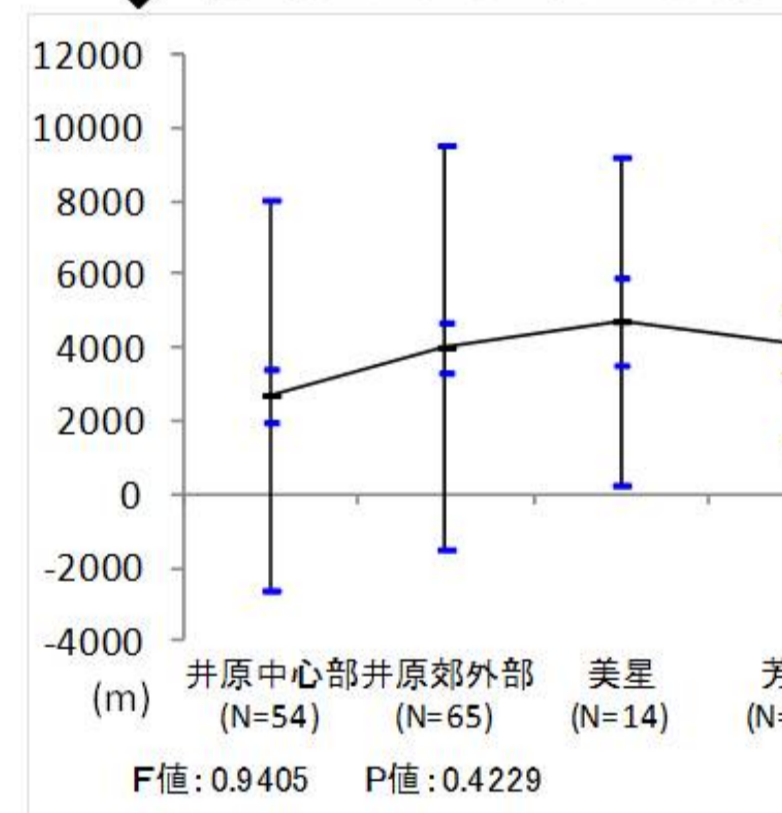


◆ 買物における移動手段

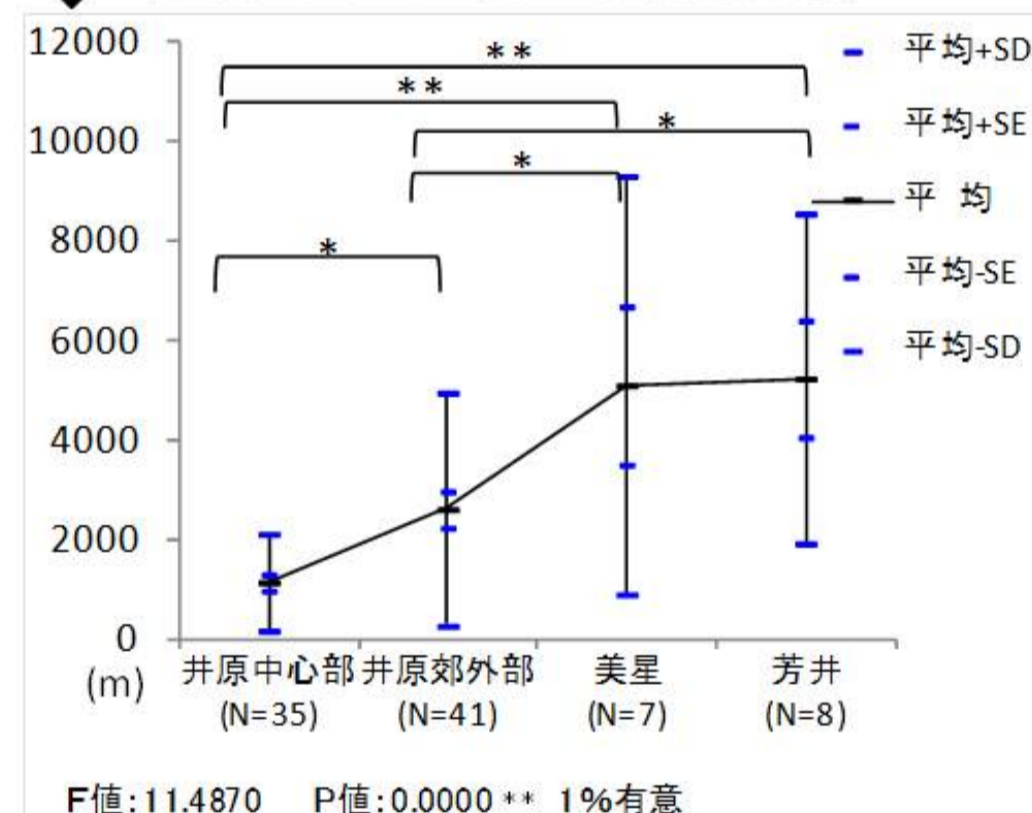


健常者に比べ、障害者は「自分で車を運転」の割合が低く、「家族による送迎」の割合が高い。また通院では「福祉・介護タクシー」「ヘルパーによる送迎」といった福祉交通による移動も多い

◆ 肢体不自由者の通院距離

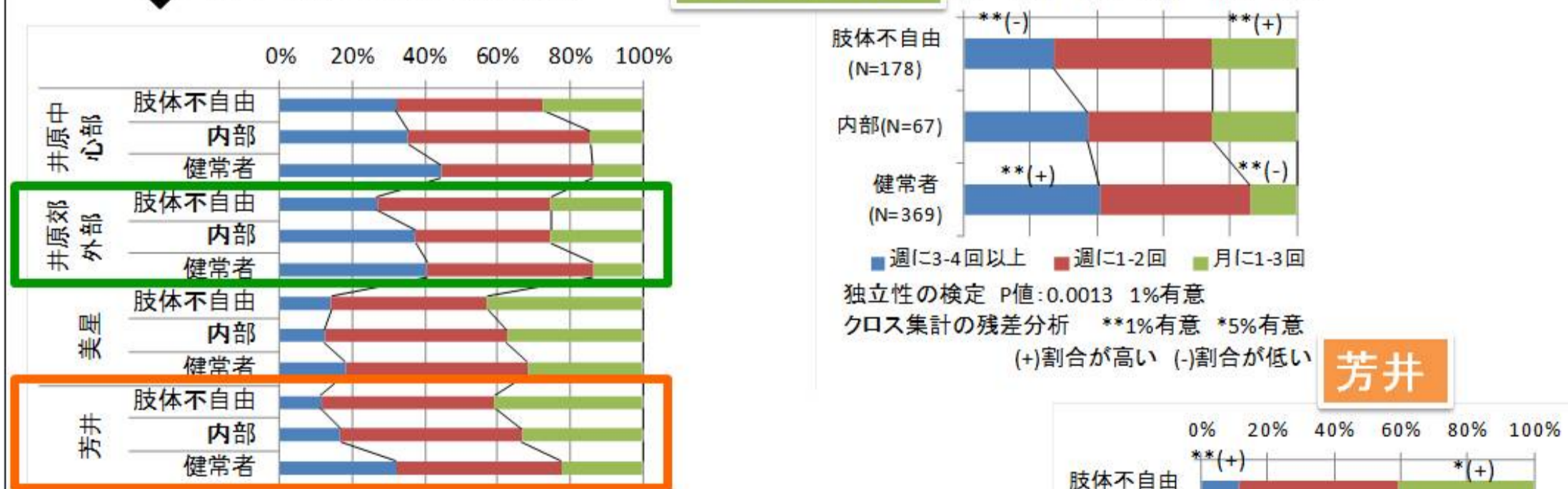


◆ 肢体不自由者の買物距離



通院距離について居住地域別の肢体不自由者の間に有意な差が見られない
買物距離については有意な差が見られ郊外部ほど移動距離が長くなる

◆ 地域別の買物頻度



地域別の買物頻度は芳井と井原郊外では肢体不自由者は健常者と比べ有意に買物頻度が少ない

障害者の買物頻度と地域性には関連性がある

結論

今まで明らかとされていない障害者の移動実態を把握した

- ・外出頻度: 肢体不自由者<内部障害者<健常者
- ・車の所持率: 肢体不自由者<内部障害者<健常者
- ・歩行可能距離: 肢体不自由者<内部障害者<健常者
- ・福祉交通利用: 買物<通院
- ・通院距離: 地域によって有意差は見られない
- ・買物距離: 郊外部ほど移動距離は長く、買物頻度においても地域差の存在が確認できた